

みんなのた場

サークル仲間

クラフト手芸ミニかご作りサークル さまざまなお紙ひもで作品 知人や孫らにプレゼント

毎月最終月曜日の午後1時から3時まで、市復興まちづくり情報交流館雄勝館で、紙ひもを使った作品作りを楽しんでいます。
もともとは、雄勝に住む女性3人が趣味で習っていたかご作りです。昨年4月、NPO法人雄勝まちづくり協会の主催となり、新たなメンバーを募集してサークルが結成されました。
毎回、バッグやくずかごなど一つのテーマを決め、

講師の手ほどきを受けながら製作します。今回は手提げバッグでした。
作り方の図面を見ながら、さまざまなお紙や幅の紙ひもを縦横に編んでいき、へりを接着剤で接合して完成です。多くのメンバーが2時間で一つの作品を作り上げました。
講師の指導をしっかりと聞いて作っていき、初参加でも丈夫な物ができます。作った作品は普段使い

のほか、知人や孫などにプレゼントする参加者も多く、「喜ばれるのがとてもうれしいですよ」と声を弾ませるメンバーもいました。
製作中の会話にも花が咲きます。かご作り方やまちの話など、手を動かしながらも話は尽きません。参加者にとっては、月1回の大切なリフレッシュの時間となっています。
メンバーの阿部文子さん(65)は「こつこつ作って出来上がる喜びが大きいですね。話しながら作るとより楽しいし、気分転換にもなります」とサークルの魅力を話していました。
結成以来、誰一人、サークルをやめるメンバーがいないことも、このサークルが楽しいことの証と言えそうです。



クラフト手芸ミニかご作りサークルの皆さん



手提げバッグ作りを楽しむ参加者



第25回 変形性関節症

石巻市立病院 整形外科部長 千葉 仁志

整形外科を受診される方で、膝の痛みを訴える方も多くいらっしゃいます。その中で最も多い病気が変形性関節症です。膝関節では骨同士が直接ぶつからないように表面が軟骨でおおわれています。変形性関節症とは、この軟骨がすり減ってしまい、骨と骨が直接ぶつかって炎症をおこし、徐々に変形してくる状態をいいます。

変形性関節症では①歩きはじめや長時間歩いた後に痛みを感じる②膝に水がたまり、にぶい痛みが続き、膝の動きが悪くなるなどの症状があります。

治療法には「保存療法」と「手術療法」があります。保存療法には①運動療法(筋力強化訓練、可動域訓練など)②薬物療法(鎮痛剤・関節内注射など)③装具療法(サポーター、足底板など)があります。手術療法には①関節鏡視下手術②骨切り術③人工関節置換術があります。

軽度の変形性関節症では運動療法だけでも痛みの改善が見込まれますが、重度の変形性関節症では手術療法のなかでも人工関節置換術が適応になります。いろいろな治療法の中から患者さんの状態に応じて適切な治療法を選択することが大切です。

膝の痛みでお困りの方は、一度最寄りのクリニックを受診してはいかがでしょうか。

診療時間等が変更になります

市立病院開成仮診療所

7月1日(土)から市立病院開成仮診療所の診療日が次のとおり変更となります。

月曜・木曜・金曜日 午前8時30分～11時30分(午後休診)

火曜・水曜日 休診日

市立病院開成仮診療所 ☎23-3200

下水道建設課

長瀬 拓也さん 28歳
富山県射水市から派遣

浸水対策に汗流す

東日本大震災で被災した方々の役に立ちたいと思ったので、今回募集があった際に即、「行きたいです」と手を挙げました。
4月に赴任し、旧北上川西部と市役所周辺の雨水幹

線整備を担当しています。道路や河川などの管理者、地元関係者と協議、説明を行っているんです。浸水対策は喫緊の課題なので、協議が難航しないように丁寧な対応を心がけています。
少しの雨でも冠水する場所があり、目立たない所での復興はまだだと感じます。自分の仕事を通じて石巻が災害に強いまちになるよう願っています。

市民税課

加藤 友英さん 58歳
愛知県北名古屋市から派遣

「ご縁」に感謝

東日本大震災後、宮城県内外の津波被災地を何度も訪れ、ボランティア活動をしました。仕事で直接応援したいと思い、毎年、派遣希望を出していましたが、今年4月、やっと希望がか

ないました。
法人市民税や市税に関する証明書の交付事務を行っています。
定年までの2年、石巻市民の一人として、しっかりと復興へのお手伝いをしていきます。
次にどこかで起こる大震災に備えて「石巻モデル」「石巻魂」を伝えていけるような石巻になってほしいですね。



キラッとパチリ



まちの話題

もし家族が突然、倒れたら？

雄勝地区「男の介護教室」(市社会福祉協議会主催)が5月16日、熊沢コミュニティセンターで開講しました。

男性が調理を迫られる状況を想定し、調理実習を中心に3回実施します。

今回は男性24人が参加。豚肉と野菜の蒸し料理を作って試食し、出来栄を語り合いました。家族が突然倒れた場合の対処法や、食べることを考える講話もありました。



雄勝地区

男の介護教室

河北地区

広い草地でストレスを解消

市営河北上品山牧場で5月19日、繁殖用黒毛和種の雌牛41頭の放牧が始まりました。

畜産農家の経費や労力の削減と牛の健康増進、ストレス解消による受胎率向上が目的です。

11戸の農家からトラックで運び込まれた牛たちは、健康チェックの後、広大な牧草地を気持ちよさそうに走り回ったり、草をはんだりしていました。放牧は11月1日まで行われます。



上品山牧場で放牧始まる

これからも安全運転でね！

桃生地区は4月21日で交通死亡事故ゼロ500日を達成し、4月27日に桃生総合支所会議室で河北署からの感謝状贈呈式がありました。

交通安全団体など関係者約15人が出席し、佐々木雅弘河北署長が菅原満桃生総合支所長に感謝状を手渡しました。

関係者は、これからも交通安全運動や飲酒運転追放活動などに積極的に取り組んでいく決意を新たにしました。



桃生地区

交通死亡事故ゼロ500日達成

河南地区

歌と踊りを地域一丸で披露

鹿又地区に伝わる「鹿又音頭」と踊りが5月20日、鹿又小学校の運動会で披露されました。

全校児童と保存会、住民ら約300人が大きな輪をつくり、盆踊り風の振り付けで踊りを楽しみました。

鹿又音頭は町村合併(昭和30年)前の旧鹿又村で生まれたご当地ソング。地域の絆づくりに携わる住民らで2年前、約60年ぶりに復活、児童にも地域学習の一環で受け継がれています。



運動会で「鹿又音頭」

清掃と踊りで地域を元気に

牡鹿中学校生徒会(37人)の「笑顔創造プロジェクト」が5月30日に行われました。

4班に分かれ、地区の仮設住宅や福祉施設など14カ所を巡り、周辺のごみを拾ったり、住民らに待ソランを披露したりしました。

プロジェクトは「震災後の住民を笑顔にしたい」と平成24年から実施しています。本年度最初の活動に、住民らは笑顔で声援を送っていました。



牡鹿地区

笑顔創造プロジェクト

北上地区

鉢の中に映える自然を観賞

北上文化協会山野草愛好会の春の山野草展が5月13、14日に「にっこりサンパーク」クラブハウスで開かれました。

会員3人が育てたイワカガミ、クロユリ、カンアオイ、オモト、イワヒバなど約15種類の山野草約100鉢を展示。

市内外から約70人が訪れ、愛らしい花や美しい姿を観賞していました。鈴木恒雄代表(66)は「会員を募集しています」と話しています。



春の山野草展

伝統芸能などで寄港を歓迎

石巻港に5月23日、大型客船「ばしふいっくびいなす」が入港しました。

石巻港大型客船誘致協議会は、開港50周年記念事業として「ウェルカムフェスタ2017」を開催。伝統芸能を披露したり、地場産品や復興商品を販売したりしました。

乗客を対象に、被災地巡りや金華山観光などのツアーも実施されました。6月10日には「飛鳥II」、11日には「にっぽん丸」も寄港しました。



石巻地区

誘致の大型客船寄港

石巻地区

復元船誕生日を祝いました

復元船「サン・ファン・パウティスタ号」の誕生日(1993年5月22日)を祝う第24回サン・ファン祭り(実行委員会主催)が5月28日、渡波の県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)とサン・ファンパークで開かれました。

学校や市民団体が音楽演奏や郷土芸能、チャリティーなどを披露。出店ではイタリアやスペイン料理も販売され、大勢の市民や観光客でにぎわいました。



サン・ファン祭り